

## 第19回自動車安全技術プロジェクトチーム会議 開催結果

### 1 開催概要

- (1) 日時 令和5年3月20日(月)午後2時15分～午後4時15分
- (2) 場所 愛知県三の丸庁舎8階 801会議室
- (3) 出席者 以下のとおり(敬称略)

#### 【企業】

- 林 健 (株)アイシン 走行安全第1制御技術部 部長
- 平光 康裕 (株)アドヴィックス 技術統括部 技術企画室 室長
- 坂 要一郎 (株)デンソー モビリティエレクトロニクス経営企画部 上級キャリアエキスパート
- 竹田 雅弘 トヨタ自動車(株) コネクティッド統括部 ITS推進室 プロフェッショナル・パートナー
- 児玉 将芳 (株)トヨタ名古屋教育センター(中部日本自動車学校) 取締役
- 伊藤 政義 三菱自動車工業(株) 第二車両技術開発本部 先行技術開発部

#### 【大学】

- 松尾幸二郎 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授

#### 【行政】

- 国土交通省中部運輸局
- 豊田市
- 愛知県知事 大村 秀章(挨拶後に退席)
- 愛知県経済産業局、防災安全局、都市・交通局、建設局
- 愛知県警察本部

#### 【講師】

- 趙 雨晴 名古屋大学大学院 機械システム工学専攻・機械知能学 助教
- 松本 和也 一般社団法人日本自動車連盟愛知支部 事業課 課長
- ヤーコブ・シテム・トーブ イスラエル 運輸・道路安全省

### 2 議事概要

- 大村知事挨拶の後、事務局から、今年度のプロジェクトチームの取組成果について報告を行った。また、メンバーから関連する取組について報告いただき、外部講師からは先進事例についてご講演いただいた。
- その後、意見交換を行った。主な発言は以下のとおり。

#### 【主な発言】

(株式会社アイシン 林 氏)

安心して暮らせる社会に向けて、交通死亡事故ゼロを実現することが重要である。弊社では、引き続き、先進安全技術に関連した商品開発及びその提供を継続して進めていく。

(株式会社アドヴィックス 平光 氏)

事故が起きる前の対策、起きた後の対策、啓発活動など一つ一つの取り組みが積み上がって、交通死亡事故ゼロに繋がっていくと考えている。引き続き我々も協力できるところはしっかりやっていきたい。

また、実際に起きた交通事故に対して、プライバシーの問題等はあるが、事実を一つ一つ棚卸しして、我々が技術的にできることは何かを考え、しっかり積み上げていければ、交通量の多い愛知県でも死亡事故は減らせると思っている。引き続き本プロジェクトチームの活動を通して我々も貢献していきたい。

(株式会社デンソー 坂 氏)

弊社でも交通事故死亡者ゼロを目指し、車のセンサー等の開発を進めているが、それだけでは救えない(死亡)事故もある。

刈谷市、大府市等と連携し、ドライバーだけでなく、歩行者の意識を向上させることによって、交通死亡事故ゼロを進める活動をしている。

このプロジェクトチームも設置から10年経つが、さらにこういった活動を進めて貢献していく。

(トヨタ自動車株式会社 竹田 氏)

プローブデータやドライブレコーダー、シミュレーター等の技術により、交通事故の発生原因の特定、安全対策の立案・実施及びその効果検証が進んでいるということは素晴らしいこと。そうした知見も取り入れ、引き続き安全技術の開発、実用化に取り組んでいきたい。

(株式会社トヨタ名古屋教育センター(中部日本自動車学校) 児玉 氏)

弊社は自動車学校であり、自動車の技術開発という分野ではなかなか関連することはないが、方針として、「一生無事故の交通社会人の育成」を掲げて活動している。

初心運転者、企業ドライバー、高齢者を対象とした講習等の実施により交通事故ゼロへ向けて活動していく。

また、普及啓発活動として毎年「やごと感車祭」を開催している。自動車の安全技術を紹介する場として、引き続きご活用いただきたい。

(三菱自動車工業株式会社 伊藤 氏)

自工会でJNCAP、ADASに関連したアセスメントの評価方法の検討取りまとめを担当している。見通しの有無や自転車の飛び出し等、また、サポカーによる交通事故の発生について本日情報があり、参考になった。本プロジェクトチームを通し、国の動きと県の活動を何か繋がれたらと思っている。引き続き、事故の無い世界を目指していく。

(一般社団法人日本自動車連盟愛知支部 松本 氏)

自動車安全技術の開発・普及にあたり、自動車ユーザーの意見が必要な場合など、アンケートの実施等で協力できればと思う。交通事故抑止のため、ぜひ今後も協力していきたい。

(豊田市 清水 氏)

豊田市はもちろん、他地域でも様々な取組が進行しており、中にはかなり類似した取組もあり、様々なデータが集まってきている。

そういった知見を共有して、それぞれの取組に活かすことができると良い。

(国土交通省中部運輸局 横山 氏)

中部運輸局では、衝突被害軽減ブレーキの評価等、自動車アセスメントの啓発として、昨年の10月に、金山総合駅連絡橋イベント広場において開催された「自動車なんでも無料相談所」において、前面衝突試験に使用した車を一般ドライバー向けに展示した。また、試験実施状況の上映も行い、自動車アセスメントの啓発に努めている。今年も実施予定である。

(愛知県防災安全局 青木県民安全監)

防災安全局では、交通事故の抑止に向けて、安全運転意識の向上を図る取組や、高齢者の事故防止に向けた各種イベントで、反射材、自転車のヘルメット着用などの啓発活動を実施している。

自動車安全技術の進化は交通事故抑止の重要な鍵である。引き続き皆様方と連携して交通事故抑止に資する自転車安全技術の情報発信を積極的に行っていききたいと考えている。

(愛知県都市・交通局 廣瀬リニア・交通対策監)

都市・交通局では、自動車安全技術に関わりが深いITSの普及啓発に向けて、愛知県ITS推進協議会を中心に、あいちITS大学セミナーやITSあいち県民フォーラムなどを通じ、取り組みを着実に進めている。

愛知県は、他の大都市圏と比べ、交通利用における車への依存度が非常に高い。テレワークの普及等により、鉄道の利用者は、以前の7割から8割程度に止まりそれ以上の回復は難しいとも言われている。また、観光についても復活してきてはいるが、移動手段として自家用車やレンタカーを選択する人の割合が増えている。

愛知県の交通事故死亡者数は年々減少傾向が続いているが、依然として多くの方が亡くなっているという現状であり、安全円滑に移動できる道路交通環境の実現と、交通事故の抑止のため、引き続き、本プロジェクトチームの皆様と連携して取り組んでいく。